

○松下議長 通告1番目、10番、井神慶久議員、発言席から総括方式で質問願います。
井神慶久議員。

○井神議員 おはようございます。10番、井神慶久です。議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

まず、1点目ですが、中高一貫校についてであります。

以前より、岩出市では、市内に県立中高一貫校の設置を望む声が多くありました。特に、今年度の市政懇談会では、私も18会場中12会場に出席させていただきましたが、その多くの会場で、県立中高一貫校設置の要望が多く出されていきました。私自身も何人かの保護者の方から、一日でも早く中高一貫校を市内につくってほしいという要望をされています。

その中でも、ある保護者のおじいさんですが「紀北では橋本に、もちろん和歌山市内に、それから紀中、紀南のほうにもあると聞いているが、なぜ旧那賀郡内にはないのか」と言われました。「井神市議会議員さんらは、何か働きかけをしていますか。」とか、「何もしないで待っているだけなら、できるものもできなくなるで。」と強く何度も何度も言われたことがあります。

そこで、まず質問ですが、中高一貫校について、1つ、市の考えは、また、2番目に、現時点での和歌山県内の中高一貫校の現状は、何か問題点はあるのか、についてであります。

2点目に、全国学力テストについてであります。

本年4月22日に実施されました全国学力・学習状況調査の結果が、8月25日に文科省から発表されました。その結果を見ると、和歌山県は、皆さんもご存じのとおり、小学国語Aが全国最下位で、そのほかにも全国的に低位の位置にあり、この先、大丈夫かなと危機感に感じるのは私だけでしょうか。この調査は、学力の一部にすぎないと思いますが、学力の1つの指標として示された結果は、重く受けとめなければならないと思います。

昨年、ある県では、知事が成績下位の校長名を公表すると表明して物議をかもしましたが、公表を見送ったという経緯もあります。私は公表をしたほうがよいと思います。確かに、過度の競争が序列化を招くと反発される方もおられますが、競争から目を背けず、競い合い、学ぶ効果もあると私は認識しております。

公表に当たっても、学校の現状を地域や家庭に知ってもらい、連携する上でも、積極的な公表が欠かせないではないかと考えております。市長の行政報告の中にも、

本年度から、全国学力・学習状況調査に加えて、独自で小学校3年から5年、中学校の1、2年を対象に、岩出市学力調査を実施していますが、これらのテスト結果はどうだったのでしょうか。

いろいろと独自で授業を、市としては独自で考えているようですが、行政だけでは限度があると思います。学校や保護者、また、地元の地域の人々にも、現在の状況を知ってもらうのも大事ではないかなと思っております。未来の岩出を担う子ども1人でも多く育ててもらうような教育をしなければならないと考えております。

そこで、全国学力テストについてであります。1番目に、学校別成績を公表するのか、しないのか、2つ目に、学力向上に向けた今後の対策、改善点の考えは、について質問させていただきます。

○松下議長 ただいまの質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○平松教育長 おはようございます。

井神議員のご質問の1番目、中高一貫校についての1点目、市の考えはについてお答えいたします。

中高一貫教育校については、小学校卒業時点での子どもたちや保護者などの進路選択の幅を広げるため、学校の複線化を進めることや、6年間の学校生活の中で計画的、継続的な教育課程を展開することにより、生徒の個性や創造性を伸ばすことを目的に、平成10年度に制度化され、その翌年度から導入されております。

全国的に見て、公立の中高一貫校は、平成25年で103校、内訳は中等教育学校29校、併設型74校が設置され、私立中学に比べ経済的な負担軽減などから公立中高一貫校の人气が高く、文部科学省でも私立中高一貫校を含め、今後、さらに設置されるものと考えられますとしております。

先ほど、議員のご質問の中にもあったように、岩出市では、以前から市内に県立中高一貫校の設置を望む声があり、昨年の市政懇談会でも設置要望が出されたのに続き、特に、今年度は複数の会場において、県立中高一貫校設置の要望が数多く出されており、小学生を持つ保護者を中心に、市民の中に、岩出市に県立中高一貫校の設立を強く望む声が多くあるものと認識しております。

次に、2点目の現時点での中高一貫校の現状は。また、何か問題点はあるのか、本県に関してということですね、についてお答えします。

本県における中高一貫校については、平成16年に県下初となる県立向陽中学が創設されたのに続き、これまでに桐蔭、橋本、古佐田丘中学校ですが、田辺、日高の

5校が設置されています。現在、それらの学校では、全ての高校の卒業生を出している状況にあり、そのほとんどが大学進学を希望し、進路実績等において成果が上がるとともに、生徒会活動やクラブ活動でも個性や創造性を伸張している生徒も多くいるとの報告があります。

一方で、少子化が急速に進展する地方にあっては、県立中学が地域の最大規模の学校となると、課題も指摘されております。

次に、2点目、質問の2番目、全国学力テストについての1点目、学校別成績を公表するのか、しないのかについてお答えいたします。

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、市全体の学力の状況や生活の状況について、全国平均と比べた特徴的な概要及び今後の対策を公表することにしていきます。

なお、この調査では、国が示す実施要領では、平均正答数や平均正答率などの数値については、一覧での公表やそれらの数値による順位を付した公表などは行わないことと規定されていることから、学校名を明らかにした各学校の個別の状況については、公表はいたしません。

また、各学校の状況については、それぞれの学校において市と同様の内容で公表する予定にしております。

次に、2点目の学力向上に向けた今後の対策、改善点の考えはについてお答えします。

まず、今回の調査結果については、小学生の成績は、年々県平均との差は縮小し、改善の兆しが出てきておりますが、依然として、教科ごとの正答率は、全国平均を2ポイントから5ポイント下回っており、特に、中学生は全国平均を6.5ポイントから10ポイント下回るという大変厳しい結果になっています。

今後の対策、改善についてであります。学力の向上は本市最大の教育課題であるとの認識のもと、本年度、初めて全国学力・学習状況調査の実施日に、その対象外である小学3、4、5年生及び中学1、2年生を対象に、市独自で全国学力テストに準拠した内容の学力テストを実施いたしました。このテストは、早い学年の段階から学校や学年及び個人のさまざまな課題を明らかにし、早期改善を図るとともに、保護者への個人成績の通知などを通して、個々の児童生徒の学習支援をしていくことを主な目的にしております。

現在、市内の小学校においては、この市の学力テストと12月に実施する和歌山県学力到達度調査、これは小学校4、5、6年生と中学1、2年生が対象ですが、こ

の2回の学力テストを軸として、学力向上のサイクルを確立し、改善に向けた取り組みを行っているところであります。

さらに、県教育委員会でも対策委員会を立ち上げ、学力向上対策が示される予定となっており、市の対策とあわせて、県の対策についても一人一人の教員に徹底するよう努めるとともに、学校訪問やあらゆる研修の機会を捉えて教員の指導力向上に努めてまいります。

また、今回の調査では、本市の児童生徒は、携帯電話、スマートフォン、テレビゲームの利用時間が多いこと、また、それに反して家庭で学習、復習したりする時間が大変少ないことなどが、これまでも増して明確になりました。秋田県などの上位常連県などの実績からは、学校と保護者が連携し、進める家庭学習の習慣化は、学力向上にとって大切であることは明白であります。

家庭学習については、教育委員会作成の「家庭学習啓発資料いわでのこ」を、来年度、本市の児童生徒の課題を明示するなどバージョンアップした改訂版を作成し、さらなる家庭学習の啓発、推進を図ってまいりたいと考えております。

○松下議長 再質問を許します。

○井神議員 中高一貫校での再質問ですが、岩出市内から電車を利用して、和歌山市内の県立中学校や私立中学校に進学されてる生徒はどれくらいおられるのでしょうか。

また、学力テストのことですが「学校名を明らかにした公表や数値による公表はしない。」と言っておられますが、学力向上には、それらを公表することにより、競争原理の導入も必要ではないかと私は思います。学力の結果だけではなく、生活アンケートの結果はどうだったのでしょうか。

以上です。

○松下議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○平松教育長 井神議員の再質問にお答えします。

まず、第1点目、岩出市から電車等を利用して、和歌山市内の県立中学等に進学している生徒はどれくらいいるのかということです。

和歌山市内の県立中学に進学している生徒は、現在1年生で13名、2年生で15名、3年生で13名、合計41名で、和歌山市の私立中学に進学している生徒は、1年生で46名、2年生で41名、3年生で38名、合計125名となっております。

それと、次の学校名を明らかにした公表の数値、公表や数値による公表はしない

こととしているけれども、それらを公表することが必要ではないのか、また、学力の結果だけでなく、アンケートについてはどうであったのかというふうなことについてのお答えをさせていただきます。

まず、今回の公表は、国の実施要領に伴って、市教育委員会として初めて実施するものであります。県内の他の自治体との情報交換では、学校名を明らかにした公表とか、数値による公表はしないというふうにする自治体のほうが多い状況にありまして、今後の公表のあり方については、さまざまな方面から、ご意見や県内自治体の状況を見きわめながら、引き続き検討してまいりたいと考えております。

なお、先ほども言いましたように、今回の公表の目的は、市の概況を市民の皆様にお知らせし、子どもたちの健やかな成長と学力向上のために、家庭や地域の皆様にご協力をお願いすることであるため、そのような内容を中心としたものを公表したいと考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。それから、同時に実施した生活アンケート、学習状況調査でありますけれども、その結果につきましては、全国平均と比べてすぐれている点としては、本市の児童生徒ともに自尊感情が高く、いじめはどんな理由があってもいけないことだという認識を持ち、また、毎日楽しく学校に通えている様子が伺えます。

また、中学生は、将来の夢や希望を持っている、そのような生徒の割合が全国平均を上回っているというのもわかっております。

一方、課題としては、就寝時刻が一定でない、家庭ではテレビゲーム、携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットをする時間が長くなっております。その裏返しとして、自分で計画を立てて勉強したり、予習、復習をしたりする時間が短い状況にあります。

また、「読書は好きか。」という質問につきましても、児童生徒とも、全国平均を下回っている状況になってございます。

○松下議長 再々質問を許します。

井神慶久議員。

○井神議員 1点目の市外の電車なりを使って通学されている方が、毎年50名前後おられるということでもあります。ある方からも、うちの娘や息子が朝早くから送っていくのもつらいなという方の声も聞いております。ですので、私としては、中高一貫校に関しては、那賀高校に県立高校が設置されれば、わざわざ和歌山市内へ電車で通学する必要がなく、生徒や保護者にかなりのニーズがあると思われれます。那賀高校への県立中学校設置についてのお考えは、お聞きしたいと思っております。

続きまして、学力向上の件でございますが、アンケートの結果を伺いますと、テレビやテレビゲーム、携帯電話等、使用時間が長いということではありますが、これでは、家庭での勉強時間や読書の時間が短くなるのは当然であります。これからのことは、学校だけで解決できる問題ではなく、家庭での生活習慣の改善が必要であると考えます。よく、学校、家庭、地域の連携と言われますが、今後、子どもたちに学力向上のため、学校、家庭、地域での連携強化にどのように取り組まれるのか、お聞きします。

以上です。

○松下議長 ただいまの再々質問に対する市当局の答弁を求めます。

教育長。

○平松教育長 井神議員の再々質問にお答えします。

まず、1点目の毎年50名前後の生徒が和歌山市のほうに行っている。那賀高校に県立中学校を設置できれば、わざわざそういう和歌山市内へ通学することなく、また、ニーズもあると思われるけれど、どうかという点についてであります。那賀高校への中学校設置については、生徒や保護者の間でかなりニーズがあり、仮に、設置されれば、進路選択の幅も広がることになるかと思えます。

しかしながら、この県立中学校の設置につきましては、県教育委員会の管轄となるため、井神議員からの本議会でのご質問をいただいたということとともに、今年度、市政懇談会において複数の会場で、この県立中学校、中高一貫教育の設置の要望が数多く出されていたこと、このことについては、既に、市のほうから今年度の市政懇談会で出された県関係の要望とともに、あわせて提出していただいているのですが、再度、内容とともに県教育委員会のほうにお伝えさせていただきたいというふうに思います。

それから、もう1点の再々質問ですが、アンケートの結果から、家庭での勉強時間が短くなってくるとか、それから、学校だけで解決できる問題ではなくて、家庭での生活習慣の改善が必要であるというふうな、こういう点につきまして、どう取り組まれておられるのかという点であります。平成24年度に「家庭学習啓発指導いわでのこ」を、先ほども言いましたが、作成しておりますが、それを小中学校の保護者に配布して、これまでも市政懇談会とか、区自治会長会等にも配布して、活用を呼びかけておりました。

今回の学力調査の結果から、学力と生活習慣の確立とか、それからスマートフォン等の使用時間には、明らかに相関関係が見られるということがわかってございま

す。先ほどもお答えしたように、詳細な対策につきましては、現在検討中ではありますが、これらの情報を新たに追加して、改訂版「いわでのこ」を今年度中に作成する予定としており、学校での懇談会等の機会を利用して、さらなる啓発強化に努めてまいりたいと考えております。学校に対しては、学校便りや学校のウェブサイトを通じて、「いわでのこ」の活用促進を学校独自の啓発強化について指導してまいりたいと考えてございます。

○松下議長 以上で井神慶久議員の一般質問を終わります。